

治療で生存率に差

開業医と琉大が追跡調査

寝ているときに呼吸が止まる睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断後に治療を受けた人と受けなかった人では、十年後の生存率が二割も違うことが、名嘉村クリニック(浦添市)と琉球大学医学部の共同研究で分かった。また、BMI(体格指数)二五以下で肺疾患を持つSAS患者は肺疾患を持たないSAS患者より十倍も死亡率が高かった。SAS治療の有無による死亡率が明らかにするのは国内で初めて。同クリニックの名嘉村博院長は「SAS患者は肥満の人に多く、県内では六万人以上いるのではないかと推測、「夜間頻尿、いびきなど気になる症状がある人は専門医に相談してほしい」と呼び掛けている。(尾崎文輝)



名嘉村博院長

い人(三・九人)より十倍高かった。

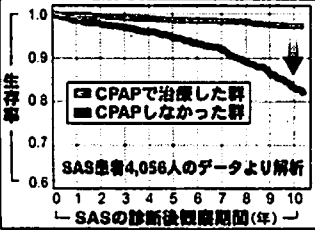
SASは睡眠中に十秒以上呼吸が止まる症状。呼吸が止まると、脳が覚醒して呼吸を再始動させようとするため、眠りが浅くなり、日中の活動に支障が出る。呼吸が止まると血圧が上がり、心臓疾患や脳血管障害も発生しやすくなるという。根治は難しいが、マウスピースやCPAP(経鼻的持続陽圧呼吸療法)を用いることで、疾病の併発を抑えることができる。SASを予防、改善するには①減量の禁煙②アルコールを控える③横を向いて寝る④いびきがなると頭の高さを調整する⑤狭心症、心筋梗塞などを予防することができるといふ。

睡眠時無呼吸症候群

調査は一九九〇年九月から二〇〇三年十二月までの十三年間、浦添総

調査は一九九〇年九月から二〇〇三年十二月までの十三年間、浦添総

名嘉村クリニックのCPAP治療成績



不全、心筋梗塞	24人	16.8%
突然死、不整脈	13人	9.1%
交通事故	1人	0.7%
脳血管障害	12人	8.4%
がん、悪液質、多臓器不全	19人	13.3%
呼吸器疾患、ぜんそくなど	21人	14.7%
感染症、肺炎、敗血症	15人	10.5%
その他	5人	3.5%
不明、未確認	34人	23.0%
総計	144人	

10年後に亡くなっていた人の死因

死亡がはつきりしている百五人のうち、脳血管と心血管の疾病の合計は四十九人と約半分を占めた。また、二千九百二十七人に肺機能検査をして、呼吸機能とBMI別の生存率を調べた結果、BMI二五以下(正常もしくはやせ形)で肺疾患を持つSAS患者千人の一年あたりの死亡率は三九・七人で、肺疾患を持たな

ことば

CPAP 睡眠中に圧力を加えた空気を鼻から送り込むことにより上気道を広げ、呼吸が止まるのを防ぐ方法。SASを根治することはできないが、現在最も有効な治療法と考えられている。